

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2974800043		
法人名	増春建設株式会社		
事業所名	グループホーム増春 悠久の里		
所在地	奈良県葛城市新在家393-3		
自己評価作成日	平成25年2月13日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>自然に恵まれロケーションも良く、ホーム内はゆったりしている。旬の野菜も作り近所より豆腐や野菜の差し入れもあり、料理のだしは鰹と昆布で取っている。夜間は二人体制で利用者の安全につとめている。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成25年3月14日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>建設業という法人事業の運営の中で、グループホームの必要性を認識し、開設されたホームです。「地域・家族・従業員が共に支援すること」を理念のポイントとして掲げ、一人ひとりの生活歴、性格、思いを十分把握し、利用者が精神的に安定して健康で明るい生活を送るためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同、本人の立場に立って追求されています。実際、ケアは大変きめ細かく、様々な工夫や配慮、研究が見られます。</p> <p>二上山麓の田園に囲まれた自然豊かな地域の町の中に立地し、建物はバリアフリーで、五感刺激や季節感、馴染みのものにも配慮した設えにする等居心地よく過せるよう工夫されています。自治会に加入し、清掃の他、地域の行事に積極的に参加したり、普段の暮らしの中で、畑の作物の差し入れに来られる等交流されています。夜間は二人体制とし、利用者と共に夜間を想定した火災訓練の実施や、火災時には通報ベルで地域に知らせ協力体制の整備等の災害対策、重度化や終末期に向けた方針の共有と支援等利用者や家族の安心と信頼関係が構築されているホームです。</p>
---

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が名札の裏に理念を書いたカードを入れ携帯している。理念の実践に向け取り組みをしている。理念は玄関に習字で書かれて額に入れ掲示している。	地域との関わりを重視した理念をつくり、掲示や携行する等共有に努められていますが、その理念を実践につなげる取り組みは課題となっています。	理念とは、ホームが目指すサービスのあり方を端的に示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方です。その理念を日々のサービス提供場面で振り返り、反映されていることを確認する等の取り組みを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。回覧版を回して頂き秋祭り、とんど、清掃活動等地域の行事に参加。近所より野菜のお裾わけを頂いたりする。	自治会に加入し、回覧板を始め地域の祭りや清掃等の行事へ参加されています。畑の作物の差し入れに来られる方もあり、地域の一員として日常的に交流されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を通して顔見知りになる。良好な関係を築いている。定期的にボランティアの訪問もあり、利用者の笑顔を引き出している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、区長、職員を基本に会議で話し合い二ヶ月に一度開催。議題を定めてそれにそって専門家に出席を働きかけ具体的な話をして頂き参加者にとってはホームからの報告を聞く場だけでなく知識を得る場になっている。	会議は、2月に1回開催され、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行われています。メンバーは利用者、家族、地域住民、市職員等とされ、関係者の日程調整の関係から、種々努力されていますが、やむを得ず職員のみでの開催時もあります。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、今後は、市職員等の参加に、ねばり強く働きかけることが期待されます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、分からないことなど相談したり来苑もして頂いている。	利用申し込みがあった時等の機会を捉え、ホームの情報を伝え相談する等連携に努められていますが、協力関係の構築はなお課題となっています。	行政は、介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役として最前線の立場にあることから、今後も引き続き、協力関係の構築に向けて、担当者への積極的な情報提供と共有を図る等の取り組みが期待されます。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前指摘され、家族会で相談の上、施錠しなくなった。	職員は、身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケアを実践されています。適切な見守りの下、昼間は玄関を施錠することなく自由に入出りできるようにされています。更なるサービスの質の向上を目指し研修を重ねることを検討されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を含め努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所、成年後見制度を必要とする利用者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書で説明し家族様の疑問にもきちんと説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱と第三者機関を設けて対応している。	電話やたより、家族会の開催、目安箱の設置等の他、面会時に常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見、要望等は検討し反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で意見を聞くようにしている。	随時、申し送りや月1回スタッフ会議等、話し合う機会を設け、意見を聞き反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し向上出来るように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の知らせがあれば回覧し希望者を募り、積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流をさせて頂いている。ホームと情報交換などをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話の中で聞くようにして受け止めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接と、何度か出向いて頂き十分時間をかけ、重要事項と契約書で説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、利用者、職員が相談の上決めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で教えてもらうことも多々あり共に支え合っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り一緒に居れる時間を大切に出来るように協力、支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所されるまで住んでいた近所の方、会社の同僚、部下の方の訪問も有り、八ガキや手紙も有ります。	地域に暮らす馴染みの知人・友人等との交流や、昔から利用している理美容院に行き続けられるよう支援されています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに相手の事を気にかけて、支え合っている。一階リビングに昼間はほとんど集まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームより電話を入れたり、季刊誌に手紙を添え送ったり近況など電話で伝えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重している。	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握し、言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家で使用していた物を持ち込まれている。 (化粧台・仏壇・タンス・テレビなど)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議で全員で共有し把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のケース会議で話し合い、それに基づき介護計画を作成。家族の面会は頻回に有り、意見を取り入れている。	本人や家族の意向を確認し、関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、定期的にモニタリングを実施し、それに基づき見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・ケース記録・連絡帳で情報を共有している。朝礼で夜間帯の引き継ぎを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近くの知り合いのそば屋さんなどに食事に行ったり、民謡・踊り・尺八・大正琴など地域との関係で支援出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回のかかりつけ医の訪問、週一回の訪問看護、毎日のバイタルサインの測定を行っている。	これまでのかかりつけ医を基本としつつ、本人や家族の希望により協力医療機関で受診できるよう支援されています。通院介助等安心して受診できるよう支援されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か異常があればすぐ連絡し来てもらう様にしている。(訪問看護)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携もあり、以前利用者様が入院中の時は早期退院出来るようにほぼ毎日付き添いしながら、リハビリの訓練に参加していた。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに向け、医師・看護師・家族様・職員で話し合っている。	重度化・終末期ケア対応指針に基づき、入居時から終末期の過ごし方について家族に意向を確認し、重度化した場合や終末期には家族、かかりつけ医とカンファレンスを重ね、方針を確認する等支援されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より来て頂き実践している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練(内一回は消防署より来て頂く)を行っている。近隣にも声掛けをしている。	夜間は二人体制とし、消防署の協力を得て年2回訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施されています。近隣住民に緊急連絡通報ベルで知らせ、より早く避難できるよう地域との協力体制が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少しでも温かい言葉掛けになるように日頃から心掛けている。	人格の尊重やプライバシーを損ねない対応について、勉強会やスタッフ会議等で確認し、人格の尊重に配慮した言葉掛けや、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物、ドライブ、散歩などで働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクは職員が決めるのではなく、入居者がしたいことを選んでしている。買い物も本人が買いたいものを選べるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の免許を持っている者が居る為、苑の中で行っている。化粧道具、衣類も持ち込んでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備、後片付けも行う。	調理、盛り付け、配膳、後片付け等個々の能力に応じて職員と協働し、食事への関心を引き起こす工夫がなされています。職員も利用者と一緒に食事されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録でチェックしている。水分量も分かるようにしている。カロリー計算も出来ている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取りパット、トレーニングパンツの使用のみ。 排泄パターンはケース記録で管理している。	排泄チェック表に記録し、時間を見計らって誘導する等排泄パターンに応じて自立に向けた支援をされています。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ類も本人に合わせて検討されています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず食べ物や散歩などで対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週3回は入浴出来るようにしている。 出来ない方は足浴で対応。温泉でも対応。寝る前、希望者は清拭、足浴もしている。	入浴日や時間帯は決められており、希望により清拭、足浴等支援されています。今後夜間希望者があればその意向に沿った入浴ができるよう対応していくこととされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。プライバシーを損なわない様にカーテンをし、安心の為鍵を付ける方もおられる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と看護師で相談の上決めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー・ココア・紅茶・お茶など個々に合わせて出している。毎日10時お茶の時間、15時おやつのある時間がある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、遠足、外食、ドライブ、観劇(去年はサーカス)などに出かけている。	利用者の希望に沿って、戸外での日光浴を始め、散歩、買い物等日常的な外出の他、外食、ドライブ、観劇等や家族の協力を得て、墓参り、法事等にも出かけられるよう支援されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に事務所で預かっているが、何人かは自分で管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話はいつでもやり取りが出来る。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館自動換気システムを導入している。 空調は20度に設定されている。	リビングは、適切な温度調節を始め適度に光が差し込み明るく、掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式キッチンや自然が望まれる大きめの窓に加えひな人形を飾り、五感刺激や季節感にも配慮されている他、畳の間等利用者の馴染みのものを取り入れた設えにする等居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階の畳の部屋で思い思いの時間を過ごし、気の合った者同士で過ごされている。 ベランダで日光浴も出来る様、椅子を置いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの仏壇、鏡台、タンスを持ち込んでいる。	鏡台やタンス、仏壇等の思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の壁、トイレ、浴室に手すりを付けてある。 和室と洋室のフローリングに段差はない。		